

子どもの頃から阿蘇にはよく来ていました、
阿蘇は憩いの場です



村人図鑑

MINAMIASO VILLAGERS

パンには手を抜かない。
美味しいパンを作るために日々研究しています

熊本市内出身で、子どもの頃から阿蘇にはよく家族で遊びに来ていたみどりさんは、同じく熊本市内出身の夫、誠一郎さんと結婚し1年間市内で暮らします。

二人とも自然溢れる田舎で暮らしたいという思い

を叶えるために家を探し始め、運良く南阿蘇村の

村営住宅が当たり、南阿蘇村での生活が始まります。

自分のお店を持ちたいと熊本市内のパン屋2店舗で経験を積み、南阿蘇村で『DACCO bread+café』をオープンしてから10年が経ちました。

お店はもとと倉庫だった建物を大工の誠一郎さんが改装し、木の温もり感じる素敵なお店にリノベーションしています。

週末をお店の定休日にしたのは

家族との時間を大切にしたかったから

お店は平日の火曜から金曜までの週4日オープン。接客業だからといって必ずしも週末営業にする

のではなく、自身の想いに信念を持ち、家族との時間

を大切にしています。

子どもが小さかつた頃は家族でキヤンブによく

行っていました。今は子どもたちも大きくなってきた

ので、息子のサッカーなど部活の応援を行っています。

子どもの成長に合わせて暮らしも変化しています

が、これからも南阿蘇村で家族や仲間と一緒に暮

らしていきたいです」と和やかに話すみどりさん。

一人一人との会話を大切にしています
お客様を大切に。

カフェスペースでは子育て世代のお母さんたちが仲間同士、子どもたちと一緒に談笑している姿をよく見かけます。馴染みのお客さん、お一人お一人と笑顔で丁寧に会話を楽しむ姿が印象的なみどりさん。

美味しいパン作りはもちろん、いつ訪れてもみどりさんの笑顔が待っている、彼女との会話を楽しみに訪れている人も多く感じます。

お店には地元の方が日常的に通い、県外のリピーターが訪れることが多いそう。

「南阿蘇村は人がフレンドリーなところが好き」と笑顔で話すみどりさん。その人柄が店内にも柔らかな雰囲気が広がります。

日常の中でホツとする場所。そこは南阿蘇村の憩いの場。

